



移民受け入れをどう進めるべき？ 人口減少、外国人比率は世界 151 位…

<http://goo.gl/GNpVdD>

法務省によると、日本在留外国人は約 210 万人（2014 年 6 月末時点）。地域別では、中韓などアジアが 8 割近くと最も多い。日本の総人口に占める在留外国人の割合は約 1.7%で、これは世界 195 ヶ国 151 位と低い水準にある。

シンガポールもその一つだ。出生率は日本の 1.43 よりもさらに低い 1.20 に留まっている。しかし、出生率が低いからといって人口減少に甘んじているわけではない。人口増加は今後も続き、経済成長によって国民は豊かになり続けると予想されている。それはひとえに移民を受け入れているからである。

適切な移民受け入れ政策は、日本の明るい未来につながる：イノベーションと世界の評価好転

<http://goo.gl/Bl4Gna>

移民制度の柱：受け入れの枠組み

移民制度の柱：ソフトランディング

移民制度の柱：日本人の意識改革

移民制度の柱：若手人材の活用

移民制度の柱：新たな産業やサービス

日本人に対してのプラス効果

世界の評価が変わる

移民脅威論の誤解を解く：適切な政策が、治安や雇用などのリスクを減らす

<http://goo.gl/Lu5QR7>

移民政策で、「望ましい外国人」を受け入れよう

移民反対論を考える：海外との比較

多文化共生という草の根の土台

多文化パワーの効果に期待

まずは小規模事業から、早急な実施が必要

毛受敏浩（めんじゅ としひろ）

公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事、チーフ・プログラム・オフィサー 兵庫県庁で 10 年間の勤務の後、1988 年より公益財団法人日本国際交流センターに勤務。移民問題、草の根の国際交流を中心に、知的交流を含め幅広い分野を担当。慶応大学、静岡文芸大学等で NPO 等について非常勤講師を歴任。現在、総務大臣自治体国際交流・表彰選考委員、東京都地域国際化推進検討委員会委員長、新宿区多文化共生まちづくり会議会長等を務める。2005 年、第一回国際交流・協力実践者全国会議委員長。著書に『人口激減－移民は日本に必要である』、『公務員のための外国語活用』、『異文化体験入門』、『地球市民ネットワーク』等、また最近の監訳書に『スモールマー ト革命 持続可能な地域経済活性化への挑戦』がある。慶応大学法学部卒。米国ワシントン州立エバグリーン大学大学院で行政管理修士。